

令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第12号(3月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年2月18日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	多い

○3月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
（温 州 み か つ ）	① かいよう病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② そうか病	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	③ ハダニ類	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の気温が平年より高い見込み
（タ カ ン カ キ ン ツ ）	① かいよう病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)
	② ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
レ タ ス	① 軟腐病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)
か ぼ ち ゃ	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
（ゴ 施 設 ヤ ー ）	① ミナミキイロアザミウマ	多	↗	多	つる先当たり成虫数が平年より多いため 平年の発生量の推移(↗)
ピ ー マ ン	① ヒラズハナアザミウマ	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	② タバココナジラミ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
ト マ ト	① 黄化葉巻病	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	② うどんこ病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ コナジラミ類	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)

○3月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
さ （ 平 張 ） い ん げ ん	① タバココナジラミ	やや多	↓	やや多	平年の発生量の推移（↓）
（ 年 末 出 荷 用 ） 小 ギ ク	① 黒斑・褐斑病	多	-	-	
	② アブラムシ類	やや多	-	-	

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	2月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
（ タ か ん カ き ん こ ）	サビダニ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が多発生であった。越冬量を減らすためマシン油乳剤で防除する。夏期以降は収穫時期の多発を抑えるため、効果の優れた殺ダニ剤を散布する。薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
	カイガラムシ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種（特にアカマルカイガラムシ）が多発生であった。不要な枝を剪定するなど適切な枝管理を行う。開花までに気門封鎖系殺虫剤を散布する。化学農薬による防除を行う際は、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
キ ャ ベ ッ	シロガシラ	一部ほ場で発生。葉および結球部分を加害するため、商品価値が著しく低下する。防鳥ネット等設置し、防除を図る。
（ ゴ ー 設 ヤ ー ）	ウイルス病	WSMoVはミナミキイロアザミウマ、ZYMVはアブラムシ類がウイルスを媒介する。2月のミナミキイロアザミウマの発生量は多発生であり、アブラムシ類無翅虫もハウス内で確認されているため、早期発見と防除を徹底する。また、罹病株は見つけしだい抜き取る。

令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第12号(3月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和3年2月18日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	多い

○3月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
か ぼ ち ゃ	① うどんこ病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
（ ゴ 施 設 ） ヤ ー	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	③ タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて、2～3月の薬剤防除を徹底する。
	ツマジロクサヨトウ	2月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	チャノキイロアザミウマ	一部ほ場の新葉で発生が確認されている。対策は、不要な新梢やコミカンソウ類など雑草の施設外への除去を行う。
か ぼ ち ゃ	モザイク病	一部ほ場で発生が確認されている。今後1ヶ月の平均気温は高い見込みであるため、媒介虫のアブラムシ類の発生も懸念される。対策として、媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
ゴ と う ヤ ガ ー ン	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。

令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第12号(3月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年2月18日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	多い

○3月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		2月の発生量 (平年比)	2月からの 増減	3月の発生量 (平年比)	
水稲	① スクミリンゴガイ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の気温が平年より高い見込み
かぼちゃ	① モザイク病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ アブラムシ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	④ ハモグリバエ類	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	⑤ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
(ゴーヤー)	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② 斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値: 過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値: 過去3~4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(八重山群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて、2~3月の薬剤防除を徹底する。
	ツマジロクサヨトウ	2月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。